

いつもお世話になっております。

いまだ暑さが残ります今日この頃、  
いかがお過ごしでしょうか。

それでは、今月の事務所だよりをお届けします。

## ～トピックス～

1. 税務カレンダー（2024年10月）
2. 交際費から除外される接待飲食費の金額基準
3. 貸倒引当金の設定と完全支配関係金銭債権
4. 幸せ軸

## 2024年10月の税務

10月10日

- 9月分源泉所得税・住民税の特別徴収税額の納付

10月15日

- 特別農業所得者への予定納税基準額等の通知

10月31日

- 8月決算法人の確定申告〈法人税・消費税・地方消費税・法人事業税・（法人事業所税）・法人住民税〉
- 2月、5月、8月、11月決算法人の3月ごとの期間短縮に係る確定申告〈消費税・地方消費税〉
- 法人・個人事業者の1月ごとの期間短縮に係る確定申告〈消費税・地方消費税〉
- 2月決算法人の中間申告〈法人税・消費税・地方消費税・法人事業税・法人住民税〉（半期分）
- 消費税の年税額が400万円超の2月、5月、11月決算法人の3月ごとの中間申告〈消費税・地方消費税〉
- 消費税の年税額が4,800万円超の7月、8月決算法人を除く法人・個人事業者の1月ごとの中間申告（6月決算法人は2ヶ月分）〈消費税・地方消費税〉

○個人の道府県民税及び市町村民税の納付（第3期分）（10月中において市町村の条例で定める日）

## 交際費から除外される接待飲食費の金額基準

### ◆令和6年度の交際費に係る改正

令和6年度税制改正により、交際費等の範囲から除外される接待飲食費の金額基準が1人当たり1万円以下（改正前5000円以下）に引き上げられました。物価高や経済活動の活性化の観点からの改正とことから、従来のように事業年度単位での適用関係ではなく、税制改正法施行日の令和6年4月1日から即適用とされています。例えば、12月決算法人であっても、次期の期首日以降の適用ではなく、今期の期中中途である令和6年4月1日以後に支出する接待飲食費から、1万円基準で判定して適用することになっています。

### ◆交際費課税は決済日での判定ではない

クレジットカード等での支払いの場合で、令和6年4月1日以後の支払いであったとしても、接待飲食等の行為があった時が同年3月以前である時は、1万円基準での判定とすることにはならず、従前の5000円基準で判定して、交際費の額を算定することになります。つまり、接待飲食等の実行日ベースで適用することになります。

### ◆法人規模別の交際費課税の内容

因みに、交際費についての措置法の規定は、資本金百億円超の法人では全額損金不算入、資本金1億円超の法人では交際費のうちの接待飲食費の50%が損金算入、資本金1億円以下の法人では交際費のうちの接待飲食費の50%か、年800万円の定額控除限度額かが損金算入、とされています。

### ◆交際費での接待飲食費

接待飲食費とは、得意先等を接待して行う飲食その他これに類する行為のために要する費用で、飲食代のほか、業務遂行や行事の際に差し入れる弁当代、飲食等のために飲食店等に直接支払うテーブルチャージ料やサービス料なども含まれます。

交際費除外計算新基準の1万円は、1人当たりの接待飲食費の金額が1万円以下の場合での適用であり、1万円を超える場合は、1万円までが交際費除外対象となるのではなく、その全額が交際費等に該当するものとされます。

### ◆交際費除外計算のための適用要件

接待飲食費の交際費除外の適用要件として次の事項を記載した書類の保存が要求されています。

- 一 飲食年月日
- 二 飲食参加者名と関係
- 三 飲食参加者数
- 四 飲食額、店名、所在地
- 五 飲食事実の明示事項



## 貸倒引当金の設定と完全支配関係金銭債権

### ◆貸倒引当金設定可能法人と対象債権

法人税において、貸倒引当金の繰入額を損金算入できる普通法人は資本金が1億円以下と限定されています。さらに、資本金が5億円以上である大法人との間に完全支配関係がある法人及び大通算法人は除かれます。

法人税では、貸倒引当金の設定対象となる売掛金、受取手形、未収入金、貸付金などの金銭債権を個別評価金銭債権と一括評価金銭債権の2種類に分類し、それぞれの貸倒引当金について繰入限度額の計算を行います。

### ◆個別評価金銭債権への貸倒引当金

まず個別評価金銭債権における貸倒引当金の計算を行います。「個別評価金銭債権」とはいわゆる「不良債権」であり、①会社更生法適用等の長期棚上げ債権、②実質的回収不能の一部取立不能債権、③手形不渡り等の形式要件金銭債権などであり、債務者ごとに貸倒引当金繰入額の計算をします。

### ◆一括評価金銭債権への貸倒引当金

その後、個別評価金銭債権を除いた部分に対して一括評価金銭債権の計算を行います。一括評価金銭債権については、過去に貸倒損失の計上実績のある法人では、貸倒実績率法と法定繰入率法との2種類の計算方法から繰入限度額の大きい方を選択することになります。



貸倒実績率法とは、期末の一括評価金銭債権の帳簿価額の合計額に、過去3年間の貸倒損失発生額等に基づく法定算式により算定される実績繰入率を乗じて計算する方法です。法定繰入率法は、会社の業種ごとに規定されている法定繰入率を使う計算方法です。法定繰入率法の適用においては、同じ取引先について、債権と債務がある場合、いずれか少ない金額が「実質的に債権とみられない金額」として一括評価金銭債権の合計額から相殺消去されます。

### ◆完全支配関係にある法人への金銭債権

ところで、令和2年度税制改正において連結納税制度が廃止され、令和4年4月1日以降開始事業年度からはグループ通算制度が創設適用されています。グループ通算制度の開始に伴い、単体納税制度の部分にも幾つかの税制改正が行われ、その一つとして、完全支配関係にある法人への金銭債権は、個別評価金銭債権及び一括評価金銭債権には含まれないこととされ、貸倒引当金の設定が税務上認められなくなりました。



先日久しぶりに両替町に飲みに行きましたが、3連休前の平日ということもあってか、人通りがガラガラでびっくりしました。ここまで人がいないのは私の経験上初めてでした。入った居酒屋も私たちグループ以外は2組の若い男女しかおらず、お店のスタッフも手持ち無沙汰でした。時間が早いからこれから混んでくるのかなと思いましたが、結局9時過ぎまで入店したのは1組のみでした。表通りは相変わらず閑散としており、立っているのはお店の関係者ばかりで、声をかける通行人もおらず、見ていて気の毒でした。この日の日中は猛暑でしたから、涼しさを求めて人が繰り出し、混雑するのではないかと思いましたが、予想は見事に外れました。

最近飲み歩くサラリーマンの方もめっきり減りました。特に上司と部下という組み合わせはほとんど見かけません。働き方の意識がここ数年で大きく変わりつつあるように思います。生活スタイルの変化、価値観の多様化、実質賃金の伸び悩みなど様々な要因があると思いますが、今、世の中が急速に変化しつつあることの表れではないかと感じます。事業を行ううえでの、競合や市場、技術、経済といった外部環境の変化がかってないほどのスピードで進んでいます。こういった変化に対応していくには、自社の経営資源をいかに有効に活用していくかが大事ですが、今までの業績をあげることにのみ注力する考え方が時代遅れになってきているのかもしれない。

現在多くの企業で人出不足の時代となり、大企業を中心に「ウェルビーイング」（心身の健康、社会的つながり、精神的な充実、経済的安定を目指す）に取り組む時代となりました。「日本でいちばん大切にしたい会社」の著者で、法政大学教授の坂本光司先生がつぎのことを提唱されています。

企業が幸せを追求・実現すべき人はだれか？ 先生は以前より、「顧客満足」ではなく「社員満足」であると述べています。このことに気が付いた企業が「業績軸」から「幸せ軸」にシフトチェンジし始めています。

坂本先生は次の5人を大切にしなければならないと定義しています。

- 1人目は、社員とその家族
- 2人目は、社外社員（協力会社、仕入先・外注先）
- 3人目は、現在顧客と未来顧客
- 4人目は、地域住民、とりわけ障がい者や高齢者などの社会的弱者
- 5人目は、出資者ならびに関係機関

1人目から4人目を大事にすれば結果的に業績もあがり、5人目も満足することになるというわけです。昔は顧客第一主義とよく言われたものですが、そのために社員や社外社員を犠牲にしてはいけないということでしょう。



撮影 漆畑邦裕